

横浜市立 中村特別支援学校 小・中・高 令和 4 - 6 年度版 中期学校経営方針 ( 令和 5 年度修正 )

学校教育目標	○一人ひとりが生き生きと主体的に生活できる力を高めます。 ・一人ひとりの発達を踏まえ、能力や可能性を伸ばします。【知】 ・健康で安全に他者とのふれあいを大切に学校生活を送れるようにします。【徳】【体】 ・社会参加を推進し、地域での充実し、自立した生活を送れるようにします。【公】【開】						
	学校概要	創立 43 周年	学校長 長岡 利保	副校長 中村 一樹	2 学期制	指定地域等	
	幼児・児童・生徒数:	84 人	幼稚園:	人	小学部: 34 人	中学部: 28 人	高等部本科: 22 人 専攻科: 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力を踏まえた 「12年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を認める豊かな心</li> <li>・自分の体を知る力</li> <li>・自分から発信する力</li> <li>・国語力及び学習の基礎的能力</li> <li>・情報化社会に対応する能力</li> <li>・環境の変化に対応する能力</li> </ul>	○一人ひとりが地域社会で自立できる子 ○自分の思いを表現できる子 ○いろいろなことにチャレンジできる子 ①卒業後の社会自立を図るために児童生徒の良いところを伸ばすための授業研究をすすめる。そのためにも、児童生徒の状態を様々な方向からアセスメントして指導を行う。 ②居住地での地域活動を促進するために、就学前から学齢、卒業後までの切れ目のない地域連携を強化する。 ③文化・芸術活動を通して感性を豊かに、心の安定を図る。また、一人ひとりの特性に応じたICT機器を使用し、表現の幅を広げる。

中期取組目標	1児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、きめ細かい指導を行う。主体的に自分を表現する力を育む。 2教育課程の充実をはかり、一人ひとりの実態に応じた自立に向けた目標設定と評価を行えるように、個別の指導計画等を見直す。 3ICT機器を積極的に授業に取り入れ、検証を進める。また、そのための職員研修を充実させる。 4センター的機能を活かし、コーディネーターやSSWと連携し、ケース会議等課題解決に向けた取組を行う。 5交流及び共同学習を充実させ、地域への啓発を図り、「ともに学び、ともに生きる」社会環境づくりを推進する。 6学校運営協議会を立ち上げ、保護者や地域、関係機関と連携し、進路につながる関係づくりを推進する。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①一人ひとりの障害の状態を的確に把握し、子どもの目線に立った個別の指導計画を作成し、保護者や関係諸機関と連携してきめ細かい指導に努める。 ②教科学習・自立活動について、組織的・計画的な授業研究を行い、質の高い指導をできるようにする。
担当	各学部・学習指導部	
徳	豊かな心	①中村小学校や副学籍校、近隣小中学校を含む地域との交流活動を通して、互いの児童生徒の良さを引き出し尊重しあえる関係づくりとなるように、「交流」「共同学習」の充実を図る。 ②日々の教育活動や研修を通して、人権意識を高め「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できるようにする。
担当	各学部・交流部	
体	自分の体を知る力	①「健康な体づくり」をテーマに、給食や保健での指導の中で、「食べること」や「感染症予防」などに興味・関心をもち、取り組んでいけるよう支援していく。 ②全教職員が肢体不自由児の身体や感覚等についての学びを深め、児童生徒が日々の学習の中で体を動かす楽しさや心地よさを味わえるように取り組む。
担当	各学部・自立活動部・保健安全給食部	
公開	地域連携	①地域の行事に参加したり、学校行事に携わるボランティア活動や介護等体験、交流活動を通じて、障害や特別支援学校についての良き理解者や支援者を増やす。 ②学校HPや掲示板、学校運営協議会、児童生徒の居住区での余暇支援を中心とした地域行事などを通じて、情報を発信し、学校の教育活動の理解者を増やして地域との繋がりを深める。
担当	支援連携部・総務部	
いじめへの対応		①児童生徒の実態把握に努め、自尊感情の育成の前提となる、自己表現能力の育成にも重きを置くことが大切であるという視点を学校全体で共有する。 ②教職員一人ひとりが人権を意識できるよう、人権チェックシートを実施する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①教職員一人ひとりが自覚と責任を持って組織運営に取り組めるように、組織の再編整備を行う。 ②授業力向上のための研修の充実、人権教育の推進を図るとともに、教職員間のコミュニケーションを密にし、専門性の共有化、共感と信頼し合える人間関係づくりに努める。 ③適材適所を意識した組織を編成することで、全体的な教育の質の向上を目指す。
担当	総務部	
センター的機能の取組		①特別支援教育コーディネーターを中心に、就学に関する見学や相談活動に取り組む。また、地域の小中学校の特別な支援を必要とする子どもへの対応について、小中学校の特別支援教育コーディネーターや担任、関係機関との連携を深め、様々なケースに対応できるように努める。
担当	支援連携部	
安全管理		①様々な非常時を想定した避難訓練、不審者対応訓練への取組、そして教職員の防災・防犯研修やAED研修、緊急シミュレーションを積み重ねることで意識を高め、迅速な対応ができるようにする。 ②日々安全な医療的ケアを実践すると共に、リスクマネジメントの取組の中で、ヒヤリハットの蓄積・分析・共通理解を図り、その対策を講じる。
担当	①防災安全部②医療的ケア委員会	
研究		①タブレット端末を用いた指導・支援の実践に向けて、関係部署と連携し校内研究を運営する。 ②外部講師を招き、児童生徒の指導・支援の場面で活用できる実践的な研修を充実させる。
担当	研究研修部・教育課程委員会	
担当		